【ねがいましては】

平成２１年２月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第２２０号
「裏方さん」
　２月１１日（祝）、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、全珠連 東京都支部 新都心地区主催のＮＥＷ ＹＥＡＲ ＣＵＰ ２００９ が行われました。
　内容は、競技に、見る楽しさと参加する楽しさをプラスしたもの・・・？　でしょうか。
　我が家（KYOWA SCHOOL）は皆、そろばんにおいては未熟者ばかり、練習もほとんどせず・・・といった団体です。私の役割はイベントの中心となるスライドの制作と上演です。連盟マスコットの声優、パチとパッチー役にＮちゃんとＣちゃん、もう３年目になります。Ｃちゃんは今回の録音の際に、「わたし、声優さんになりたいかも･･･。」などと言うまでになりました。「わたしの声に、喜んでくれる子どもたちがいるってうれしいですよね。」
　人のために生きることを、もう実感してくれています。Ｃちゃんについては、この教室に来たときから感じていたことなのですが、『先生』に向いていると感じていました。子どもの目線に立って話しかける光景は、本能的なものなのでしょう。こころを覗きながら話しかけているな・・・。
　Ｎちゃんは、４年生のときにこのイベントの声優さんとして始めてもらいました。びっくりするほどのイントネーションの素晴らしさは、イベント終了後、「あの声、誰、何年生の子・・・。」と質問攻めになったくらいです。こころをしっかり見つめることのできる子です。謙虚さを兼ね備えたＮちゃんは、すがすがしい風を連想させます。
　私の彼らへの想い・・・いろいろな世界に触れてもらいたい、さまざまな人たちを見てもらいたい。普段が自宅と学校の往復になりがちな生活なのだから。
　結果は知っての通り、誰も入賞せず・・・。でも私が最もうれしいのが、一緒に行ってくれた我が家のメンバーたちの表情、明るいのです。勝っても負けても俺たち皆家族だもの・・・。そして・・・「先生、何か手伝うことないですか・・・。」と、休憩時間にＰＣコントロール席へ来てくれる子たち。
　イベント終了、「みんなでさ、忘れ物ないか見てきてくれる・・・。」「ハーイ。」最後まで残ってくれた我が家のメンバーたちが、それぞれ働いています。
　「これなんだよな・・・。」私はひとり、ジーンと噛みしめます。『気』を配っているな・・・。
　普段の栗田の口ぐせが、彼らの中にちょっぴり入り込んでいるのかな。競争のない勉強、助け合う勉強、間違えは、わかるもとなのだ。だから間違えることは良いこと。精一杯が１００点。となりの人の心の手をそっと握ってあげよう。
　そのあとみんなで仲良く昼食、オリンピックセンターの食堂は、飲み物やデザート、サラダなどがお変わり自由です。「先生、オレンジジュースでいいですか？」中２のＫ君が飲み物を取りに行ってくれます。そしていつものように、みんなで「いただきまーす。」
　帰りに有楽町の『相田みつを美術館』へ寄りました。「これ、いつもオレが言っていることと同じだよ。」

　　いいですか　いくらのろくてもかまいません
　　たいせつなことはね　いつでも前をむいて
　　自分の足で　自分の道を　歩くことなんだよ

　ここ（KYOWA SCHOOL）へ通う子たちの多くが心に傷を負って入ってきます。学校や家庭で、「なぜ、どうして・・・。」言葉にならない傷を負ってきます。
　私は『点数』という２文字が好きではありません。数字で評価されるものが、簡単に子どもたちを傷つけてしまうからです。現行の教育制度の中で使用される評価に、先生方もお母さま方も、オリの中に閉じ込められたかのように自己を見失ってしまいがちになります。
　子どもたちのこころは、銀河系宇宙よりもはるかに広いものであるはずです。毎日毎日を目を爛々と輝かせながら、こころをワクワクさせながら成長する姿が子どもらしさであるはずです。それを根こそぎ奪い取ってしまうもの・・・『成績』という２文字です。
　相田みつをさんからのメッセージその２

　　使ったところが強くなる　頭でもからだでも
　　その反対　使わぬところは

　君たちはこころをしっかり使っているね。だからこんなにもこころが強くなったよ。ありがとう。